

オープンアクセス<sup>1</sup>

# NPO の運営と実際(9)

柴田 晋平

概要 ハッピーに関する二つの法則、(1)ハッピー二乗の法則、(2)ローカルハッピーの法則をご紹介します。いずれも、星空案内の活動を推進する際に知っておくと良いことです。

## ハッピー二乗の法則の発見

山形で星空案内人制度が誕生してしばらくすると、この制度を利用する団体が全国各地に増え始めました。「この制度を使ってくれませんか？」とPRをして回ったわけではありません。自然と広がっていったという感じです。それをみていて「なんで広がっていくんだらう？」と制度を創設した私自身、わかりませんでした。星のソムリエのネーミングがいいんだろうというのが一つの意見でした。

そこで、この疑問の解決をめざして、講座の受講生の受講理由を調べるアンケートを全国いくつかの団体で実施しました。すると受講者の感じる魅力は名前ではなく、学んだことを人に伝えるということであることがわかりました。生まれてくる自分の子供に星のことを話したい、といった非常にプライベートなものから、これまで山岳ガイドをしていたけど星のことも伝えたいといったとても実用的なものまで、いろいろな動機があることがわかりました。しかし、核心部分は人に伝えることでした。

この人に話すことは実際に星空案内の活動をしている方にも重要であることがわかってきました。星空案内をして喜んでもらえることがまた自分自身の喜びに繋がっているのです。

こうして星空案内人(星のソムリエ)の輪が広

がっていく理由は、星空や宇宙について学ぶことで幸せになり、つぎに、それを案内することで喜んでもらえ、それがもう一つの幸せ感を産んでゆくということでした。これに私は「ハッピー二乗の法則」という名前をつけました。学んでハッピー、伝えてハッピーの相乗効果を指す言葉です。

## 星空案内は素晴らしい！

有名な歌手の方やスポーツ選手の方のインタビューで同じことが起きていることがわかります。私は歌が好き。私の歌を好きになってくださるお客様があって嬉しい。私はサッカーが好き。私のプレイで感動しただけのところからやりがいを感じて、頑張っていきたい。これもハッピー二乗の法則です。大スターでなくても、星空案内でハッピー二乗になれるのですから、星空案内の活動は素晴らしいです。

ハッピー二乗の後半部分だけ、「お客様に喜んでもらいたい」が先行してはうまくいかないでしょう。自己顕示欲に支配されないように注意する必要があります。出発点の星空・宇宙が大好き、それを学んでハッピーという前半部分がハッピーの大部分になっているのが普通と思います。ハッピー二乗の後半部分は、星空案内を聞いてくださる方とのコミュニケーションの中で出てくるものです。なので、自分中心の星空

1



この記事は、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスに基づくオープンアクセス記事です。引用の際は、著者名、題目、本会報名、No.ページを明記ください。

案内ではなく双方向的な会話のある星空案内になるように心がけましょう。

## ローカルハッピーの法則

ハッピー二乗の法則は、「法則」という名前がついていることからわかるのですが、自然現象を言葉で表したものです。なので、ハッピー二乗の法則を広めよう！というような考えは間違っています。ハッピー二乗の法則を知っていることは意味がありますし、この法則が成り立つような環境を整えることは重要と思います。しかし、ハッピー二乗の法則は、活動のスローガンにはなりません。

ハッピー二乗の法則の後半のハッピーを得たいという想いが強すぎると二つの行動が現れます。一つは、何か受けること・注目してもらえることを探し始める。もう一つは、星空案内に興味のある方を集めて連合体を作ったらもっと楽しいのではないかと？その方法を探し始める。そう考え始めた時に意識して欲しいのが「ローカルハッピーの法則」です。

「ローカルなハッピーは排他的である」というのがローカルハッピーの法則です。ローカルハッピーの例は、恋人のカップル、家族などではないかと思えます。ローカルハッピーになると、外からの侵入を嫌う傾向が現れます。カップルが二人きりでいたい、他の人はどっかに行ってくれ、と思うように。ローカルハッピーは、外に対して攻撃的になることすらあります。ローカルに幸せになっていればその幸せを守りたいですから、この傾向は当然です。

コロナウイルスによるパンデミックになった時のことです。街角での星空案内ができなくなったので、オンラインでの星空案内をやってみましたことがあります。複数の家庭が参加登録し、各家庭は庭や公園に出て星をみます。オンラインでつながった複数の家族に星空案内をするの

です。ネット越しに、画面共有の絵を示しながら「西の空このあたりに明るい星が見えますね。金星です」といった具合に案内します。最初は良かったのですが、あれこれ見ているうちに各家族の中で話が盛り上がってきました、参加したそれぞれの家族でそれぞれ別の話題で話が弾んでいます。こうなると小さなスピーカーから出る星空案内を聞いてくれる状況ではありません。星空案内が成り立つためには、各家族が足並みをそろえて案内に従って見て行って欲しいのですが、そのコントロールが全く効かなくなってしまいました。参加した皆さんの満足度は最高によかったのですが、案内している側は欲求不満です。これはローカルなハッピーが優先されることの良い例です。外部の人が統制をかけようと思ってもできません。

星空案内人さんたちが集まって同好会を作ったりするととても楽しいので、そこはローカルハッピーになります。そのようなグループが複数あつまって連合体を作ったらもっと楽しいのではないかと？つい考えてしまいます。「ハッピー二乗の法則のおかげで星のソムリエが全国に普及したように、全国各地の星のソムリエさんのグループの連合体ができて、そのようなグループの集まりとして発展するといいなあ」と思うわけです。しかし、これはローカルハッピーの法則に反します。

例えば、北海道の星のソムリエのグループと沖縄の星のソムリエのグループで同時に観望会を開いて、夜空の見え方の違いを感じるのは楽しいことのように思います。離れたグループで同時に同じ星空をみようという企画は実際にいくつも行われています。しかし、それが広がりを見せるということはないようです。一度、二度は楽しいですが、結局はローカルハッピーには勝てないということではないでしょう。

## ローカルハッピーに勝つ？

ローカルハッピーの法則があるので、例えば全国の天文同好会の連合体を作って盛り上がるか？というそれは非常に難しいと思います。ローカルにハッピーになっているからです。似たものとしては、全国のプラネタリウムの連合体、全国の公開天文台の連合体などがありますがそれは補助的なものであって、ローカルハッピーが優先しているとおもいます。運営はなかなか大変だと私は想像します。

ローカルにあるたくさんของกลุ่มが全国で繋がって盛り上がるようにすることは可能でしょうか？ローカルハッピーの法則に逆らうことができるかという疑問です。

可能な場合を三つほど考えてみます。

一つは、法則に逆らっているわけではないですが、ローカルハッピーがそれほどでもない場合です。2番目は、連合体で提供するサービスでとても幸せになれて、ローカルハッピーより強いハッピーが得られる場合です。3番目は、ローカルハッピーを脅かすものがある場合です。

すでにお気づきかもしれませんが、ハッピー二乗の法則の時に満たされた欲望と、星空案内人の連合体ができたらいいなという欲望とは性質が違います。紙面が限られているので長々と説明はできませんが、後者は、私の感覚だと資本主義の原理に乗った欲望です。

さて、ローカルハッピーが崩れることがあるかという問題を考えているのでした。先ほどの2番目の例はあるでしょうか。地域のスポーツクラブでローカルハッピーになっているでも、全国大会があるとそこに出てみたくなることがあげられます。プロ選手への道がこれで目に見える形にできます。

3番目はあるでしょうか。ローカルハッピーを脅かすものがある場合です。例えば、星空案内で光害は全てのローカルハッピーを脅かすものではないでしょうか。したがって、みんなで協力して光害を無くそうという運動は可能性があります。しかし、現在のところローカルハッピーの方が優っているようです。最も恐ろしい例は、外敵が攻めてくるから国民は団結しようというような独裁政治で利用される場合です。ローカルなハッピーが侵されそうだからと思わせて、ローカルハッピーの法則の「外への攻撃性」をうまく独裁者が利用しています。

ちょっと話が大きくなりましたが、このローカルハッピーの法則には非常に深いものがありますので、機会あるごとに考えていただければと思います。

NPO の運営と実際というテーマでお送りした連載はここで一旦終了したいとおもいます。重要な概念はひととおり説明できたと思います。時間の経過とともに新しい法則を発見したらまた投稿したいと思います。では、また。

著者：柴田 晋平 (しばた しんぺい)

創設以来の小天会員です。星空大好き。専門は宇宙物理学。理学博士、山形大学客員教授。特定非営利活動法人星のソムリエ機構 代表理事。

shibata.shimpei@gmail.com

